

第 38 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ） 【名前】（ 鈴木美幸 ） 【立場】（ 指導員 ）

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第（ 5 ）分科会

名称（ コロナ禍でのしょうがい児の保育、学童保育の生活や仲間との関わり。支援の工夫は？～とくに感覚過敏や ASD の子どもたちについて考える～ ）

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

昨年度の障がい児に関する分科会において、グループワークが思うようにいかなくて困ったとの意見を受け、県連協の江坂さんよりグループワークの進行をしてほしいと頼まれ第 5 分科会に参加することになりました。あいち学童保育研究集会が開かれるまでに 2 回、障がい児部会なるものにお邪魔させてもらったが、自閉症や知的障がいに加え感覚過敏の為、マスクの着用がかなり難しく、どのようにしたらよいかの知恵を貸してほしいといった内容を研修でやりたいということでした。

当日のグループワークでは、「マスクをつけたがらない子どもにどう対応していますか？」から始まりました。保護者から、マスクも色々なもの（素材・形）を試すとよいとの意見もあり、3D のもの、不織布、布等、いろんなものを試してつけてみるとその子にきっと合うマスクが見つかるよとのことでした。が、それもかなり大変な作業だなとも思いました。1 人の方は、10000 のマスクなら嫌がらないことがわかったとも言って見え、マスク 1 つに、親御さんの負担は大きいものだなと感じました。

次に、各学童保育所の子どもたちの困った行動に指導員はどう対応するのか？について話をすすめ、保護者目線、経験年数の浅い指導員目線、経験がある程度ある指導員目線で話が弾みました。障がいのある子もない子も、学童保育所では「あ～今日も楽しかった」と思ってもらいたい。暴れてしまう子は、自分の気持ちを言葉にできないから暴れるのだから、落ち着かせることが大事。「散歩」に行ったり、「お買い物」に行ったり「車でドライブ」または「車の中でお互いの顔は見ず（私はルームミラー越しに子どもの表情を盗み見していますが・・・）話をする」などの方法を今までしてきたよと、話したところ、保護者の方からは、「指導員さん方は、そういう思いで子どもたちと接しておられるのですね、感謝ですね」と言われ、嬉しくなりました。

木全先生からは、ベテラン指導員が若手指導員にアドバイスができていて、非常に良かったと言ってもらえ、グループワークの司会進行のお役に少しは立てたのかな・・・と思っています。

保護者、指導員、子どもの本音が聞ける場所、さらけ出す場所が必要との木全先生の言葉に、数年前の指導員学校での一幕を思い出しました。保護者の方が、友達に「かみつきました」「蹴りました」「けがをさせました」と、今日も指導員さんから嫌なことを言われるんだろうな・・・と思うと、お迎えに行くのが嫌になると、泣きながらお話されていたことがありました。あの方も、もっともっと本音をさらけ出して、お迎え時にはもっと違う事を伝えて欲しいと言える場があれば、研修の場で泣くことはなかったのだろうなと。でも、なかなか本音で語り合える場の提供は、ハードルが高く思ってしまうので、我々指導員が今すぐできることは、仕事で疲れている状態でお迎えに来る保護者には、子どもたちの成長している部分、お友達との関わり、楽しいそうにしていた様子、嬉しそうにしていた様子など、保護者が聞いて嬉しくなるようなことを意識して伝えていくべきなのだと再確認しました。

障がい児部会は定期的を開催しているようなので、また困ったことがあればいつでもどうぞとお誘いを受けたので、機会があればお邪魔したいと思っています。